

うつくしま福島と北海道

国土交通省 東北地方整備局 福島河川国道事務所

所長 渋谷 元



平成16年7月に開発局防災対策官から東北地方整備局福島河川国道事務所に異動しました渋谷です。福島県と当事務所について紹介させていただきます。

●福島県

福島県は東北地方の最南端に位置し福島市から東京までは273km新幹線で86分です。最南端の白河市には東京への通勤者もあり、県南では東京指向の人も多くいます。東西166km、南北133kmと東西に長く、宮城、山形、新潟、群馬、栃木、茨城の6県に接しています。人口は210万人、面積13,782km²（北海道の1/6）で全国3位です。昨年90あった市町村が合併で現在は83に、最終的には61市町村になります。

福島県は明治9年に磐前県、旧福島県、若松県が合併し誕生しました。磐前県は阿武隈高地より東側の海岸線沿いの地域で、現在の「浜通り」と、旧福島県は阿武隈高地と奥羽山脈に囲まれた「中通り」と、若松県は奥羽山脈より西の「会津」となっています。県内の主な市は中通りに県庁所在

地の福島市（人口29万人）、商業都市郡山市（34万人）、浜通りに工業都市いわき市（36万）、会津には会津若松市（11万）があり、30万都市が3つと多極分散型となっています。

●北海道と福島県

北海道と福島県の関係について紹介します。

常陸入道念西が伊達郡（中通り北部）を賜り伊達を名乗ったのが、伊達家の始まりです。応永20年（1413年）より少し前、11代伊達持宗が福島を中心、阿武隈川を望む信夫郡に杉目城を築き、現在の福島市が町になる転機をつくりました。杉目城は応永20年に落城し、伊達氏は北の梁川、桑折と城を移し、米沢、会津若松、宮城県へと移っていきます。この伊達家の一門11家の次席が亙理伊達家で北海道伊達市に移り住んだルーツです。私が着任した昨年7月はちょうど合併の話題が紙面をにぎわしました。伊達郡の町村が合併して「伊達市」を目指しましたが、北海道に同名の市があるため同じ名前が使えるかが話題の中心でした。報道によれば、北海道の伊達市と総務省の了解が得られ、合併後の名称は「伊達市」と内定しました。

また、会津若松市には会津藩の本拠、鶴ヶ城があります。戊辰戦争で鶴ヶ城が開城すると、新選組など旧幕軍の一部や会津藩の有志は旧幕府海軍と合同して箱館の五稜郭にこもり新政府軍と闘いました。



写真-1 鶴ヶ城（会津若松市）



図-1 福島河川国道事務所位置図

●福島県の産業

着任時、はじめて新幹線から駅に下りたときの福島市の印象は山にぐるりと囲まれた緑の多い街です。福島市は養蚕業で栄え、東北で初めての日銀支店が作られました。福島県は桃などの果物が有名ですが、産業的には工業立県です。製造業出荷額 5 兆2,100億円は全国19位、パソコンなど情報通信機器が最も多くなっています。高速道路のICや国道沿いにはSONY、富士通などの電子デバイスの工場が並びます。昭和60年以降、工場立地動向調査による県外企業立地件数で、福島県は常に全国上位で推移しています。道路整備と産業の進展の最もわかりやすい事例といわれています。これに対し、農業出荷額は10位ながら2,640億円、商業は 4 兆9,000億円 で21位となっています。

●東北地方整備局と福島河川国道事務所

東北地方整備局は青森、秋田、岩手、山形、宮城、福島の 6 県を管轄とし、直轄事業費は河川事業1,023億円、道路事業2,410億円、港湾事業203億円などの計3,716億円です。これらを 9 河川国道事務所等36の建設省系事務所、8 港湾事務所の計44事務所102出張所等で事業を実施しています。

福島県内には当事務所の他、2 国道事務所、ダム工事事務所、ダム管理所、港湾事務所、北陸地方整備局の河川事務所の計 7 事務所があります。

福島河川国道事務所は大正 8 年に直轄改修事業の開始により、「阿武隈川改修事務所」として発足し、今年で87年目、私で36代目の所長となる歴史ある事務所です。福島県北部の河川（33億円）、砂防（9 億円）、道路事業（65億円）を事業費108億円、13課 7 出張所、職員133名で担当しています。事務所では 3 億円以下の工事、5,000万円以下の業務を発注しており、大部分は事務所発注です。積算は事務所、工事監督は出張所で行っていますが、出張所は所長、事務係長、技術係長に現場技術員等で構成されており、一般技術職員は 7 出張所で 1 名のみです。若手職員の現場経験を積む場が少ないのが課題です。

・河川、砂防事業

当事務所の河川事業は阿武隈川のうち宮城県境から須賀川市までの129kmを管理しています。阿

武隈川は流域面積5,400km²、流域人口145万人、その大部分が福島県内にあります。平成10年 8 月に大洪水があり、その直後から概ね 3 年間で総事業費約800億円の「平成の大改修」が実施されました。これにより完成堤延長が47km（32%）から96km（66%）と 2 倍になりました。平成の大改修は短期間に大規模に実施した事業として全国的にも有名なものです。

平成17年度は河川整備計画の策定、平成の大改修で取り残された地域の輪中提を整備する水防災対策特定河川事業を推進します。砂防事業は福島市を土砂災害から守ることを目的に遊砂地、砂防堰堤等を実施しています。環境対応のためスリットダムや、既存堰堤のスリット化にも取り組んでいます。

平成16年の洪水被害の多発をふまえ、ハード事業の実施と並行し、ソフト施策の充実にも努めています。16年11月 4 日には阿武隈川流域の市町村、福島県、陸上自衛隊と当事務所で、東北初の自治体と共同の洪水を想定したRP方式防災訓練を実施しました。福島市長以下150人が参加し、本番さながらの訓練となりました。また、平成17年 2 月に防災情報相談室を設置し、市町村のハザードマップ作成を支援するとともに、福島県、市町村等関係機関との防災情報共有化を進めます。

・道路事業

福島県内の国道指定区間483.7kmを直轄 3 事務所、指定区間外1,502.5kmを県で管理しています。当事務所では国道 4 号、13号の92kmの維持管理、115号相馬市～福島市の一部10.7kmの「阿武隈東道路」の新設（自専道、権限代行）を担当しています。

福島市～郡山市郊外部は自専道ではありません

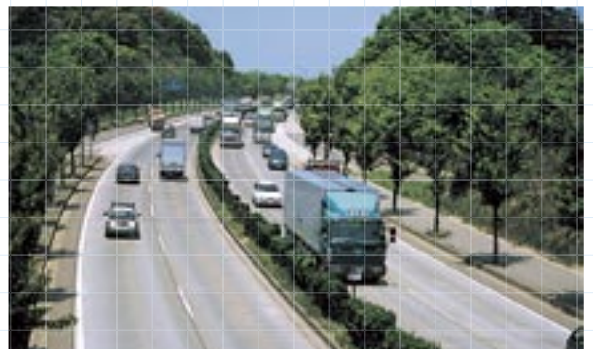


写真-2 国道4号 福島市松川町

が、パーシャルアクセスコントロールが大部分です。アクセス部はI.C.が設置され、主要な交差点は立体となっており驚きました。平面交差点が多い福島市内は、交通量が50,000台/日もあるため、常時渋滞しています。

国道13号では山形県との県境の栗子峠も管理しています。福島市内はほとんど雪が降らず峠は5m以上の積雪深となるため、白黒の管理の境界点となります。チェーンを装備せず峠の途中で登坂不能となる東京方面からの大型車が年5~10台あり、除雪車で救助されます。その対応もあり、栗子峠は東北では数少ない24時間管理となっています。改築では東京と青森を結ぶ国道4号の4車拡幅を2カ所で実施しています。また、平成16年度は福島松川SAでスマートIC社会実験を実施しました。実験は大好評で今年8月末までの延長が決まっています。

● 事務所の情報公開

当事務所は情報公開を積極的に行っています。年間の記者発表は約200回、各種イベントや公開で実施している各種委員会の案内の他、去年は高温もあり、水質事故も多数発表しました。ホームページのアクセスは年間約30万アクセスとなっています。http://www.fks-wo.thr.mlit.go.jp/がアドレスです。是非一度ご覧ください。

● 福島県の観光

福島県の観光入込客数は平成15年で4131万人です。新選組のNHK放送により会津若松の入込は増加しましたが、放送終了後は5%も減少しました。水質のよい猪苗代湖は有名ですが、新札発行により野口英世記念館も脚光を浴びています。

喜多方のラーメンはもともと「蔵のまち」として売りだしていましたが、市役所の職員がもっと街の観光資源となるものはないかと考え、個人的にPRしたのが今では全国区になったものです。

福島市に山一面に花が乱れ咲く花見山という桜の名所があります。山の所有者が無料で市民に開放していたところ、観光業者に有名になり今年は216,000人が訪れました。地元ではボランティアの「花の案内人」を配置しておもてなしをしています。

観光と同時に福島市では購買力の流出が話題になっています。福島市~仙台市間は約90kmです。新幹線では片道30分3,000円ですが、高速バスでは競争のため約1時間15分、料金は往復で1,100円です。そのため、休日には増発に次ぐ増発で、購買力の流出が問題となっています。昨年秋就任した商工会議所佐藤会頭は福島市の活性化を公約としており、日曜日の駅前地区駐車場無料化実験などを検討しています。

● 北海道のイメージ

福島における北海道の一番のイメージは豊かな自然と安全で美味しい食べ物です。スーパーには北海道産の魚や魚介類が目玉として並びます。大根やタマネギも「北海道産」がブランドです。東京のデパートでの観光物産展では北海道は福島より圧倒的に売り上げが多く驚いているとのこと。福島は東京まで1時間強のメリットがありますが、自然のイメージ等で観光では北海道が有利と感じています。

当事務所では温泉地の「ホテルの里」再生、クロスカントリー、ウォーキング、街道を生かしたまちづくり等の観光支援をしています。是非福島にも観光に来てください。

結びに、福島県と当事務所を紹介させていただく貴重な機会をご提供いただいた小長井様、山地様と北海道道路管理技術センターにお礼申し上げます。

参考文献：ふくしまの歴史 3近世（福島市教育委員会）
参考HP：福島県、福島市、会津若松市



写真-3 猪苗代湖



写真-4 花見山と福島市街